

地方公共団体名	佐賀県鹿島市	事業分野(大項目)	地方への人の流れ	事業分野(詳細)	②(①を除く)地方創生人材の確保・育成等の人材分野	事業分野	○
---------	--------	-----------	----------	----------	---------------------------	------	---

No.	①交付対象事業の名称
単独1	観光プロモーション事業

<p>②事業の背景・概要 (地域性や本交付金の必要性が分かるよう、簡潔に記入)</p>	<p>鹿島市は、佐賀県南西部に位置する、自然と人情が豊かな人口3万人の地方都市です。観光面では、日本三大稲荷「祐徳稲荷神社」や、有明海の干潟、重要伝統的建造物群保存地区などに年間325万人の観光客が訪れており、最近では、2011年の日本酒世界一を契機に、市内の6酒蔵主体の協議会組織を設立し、市内の酒蔵を散策しながら食や文化、歴史を楽しむ「酒蔵ツーリズム」を全国に先駆けて取り組み、3月のPRイベントでは、国内外より市の人口を超える観光客が訪れています。このことは、日本酒の酒蔵を活用した観光振興策として、観光庁の「酒蔵ツーリズム」の取り組み等でも優良事例としてご紹介いただいているところであります。</p> <p>ただ、本市は県内有数の温泉旅館街に挟まれた立地にあるため、宿泊による経済効果が少なく、地方創生のためには、今以上に観光地としての知名度をあげつつ、より多くの観光客にお越しいただけるよう観光プロモーション活動を積極的に展開し、合わせて市内回遊の仕組みづくり等を行うことで、交流人口の増加を図りつつ、市内における滞在時間の延長を図っていくことが重要であると考えます。特に、平成27年に入ってから、タイ人など多くの外国人観光客が訪れるようになったことから、外国人観光客とのコミュニケーションや観光案内といった受入態勢の整備を図ることが急務であり、交通拠点であるJR肥前鹿島駅前に観光案内所を開設して国内外観光客をもてなしたいと考えています。また、「酒蔵ツーリズム」のコアエリアである肥前浜宿は酒蔵ツーリズムの成功により、最も注目・成長の見込まれる地域であり、移住や空き家対策、ガイド等の人材育成などおもてなし力UPへの機運も高まっています。祐徳稲荷神社に近接した観光地である利点を活かし、市内の滞在時間の延長、定住促進と交流人口増を目指すためには、にぎわいつくりと、受け入れ態勢、新たな動きに対応できる具体的、組織的な取り組みを早急に整備する必要があります。</p> <p>本交付対象事業のポイントと総合戦略における位置づけは、人口減少を止めるための4つの政策目標のうち、「定住促進と交流人口の拡大」に寄与するものです。</p> <p>具体的には、酒蔵ツーリズム®の推進をはじめ、祐徳稲荷神社を核とした市内回遊の仕掛けづくりや観光客の市内回遊の仕組みづくり、そしてインバウンド受け入れ態勢整備に向けた取り組みに寄与する「観光プロモーション事業」を積極的に、かつ継続的に進めていこうとするものです。これらを、市内民間団体と協働で取り組みながら、本市への交流人口の拡大を進めていくものです。</p> <p>しかも、これらの事業は、いち早く取り組むことが、成果を生む重要な要素であるため、「地方創生加速化交付金」を活用して早期に事業着手したいと考えています。</p>
---	---

③交付対象事業に要する費用の内訳

	<p>交付金を充当する経費</p>	<p>全体の施策の一部に本交付金を充当する場合や複数年で事業を計画している場合は、全体の事業内容、金額及び期間について記入 ※ 複数年で事業を計画している場合は、事業終了時における重要業績評価指標(KPI)についても記入</p>
<p>内訳</p>	<p>①広告料 事業費2,000千円 「酒蔵ツーリズム」を中心とした観光PRを行うため、旅行雑誌や新聞等への有料広告の掲載のほか、本市への観光客の多い福岡県や長崎県といった、主要都市において観光誘致活動(イベント出展等)を計画する。 広告料 2,000千円</p> <p>②観光PRポスターの作成 事業費1,000千円 プロモーション・商談会会場や市内観光地に掲示し、市内回遊を促す鹿島市観光のイメージポスター(四季の風景など)を作成する。 印刷製本費 1,000千円(予算の範囲内で4~5種類作成予定)</p> <p>③多言語観光ホームページの作成 事業費3,000千円 主要な言語ごとに鹿島市観光の魅力伝えるホームページを作成、観光情報の一元化を図る。 委託料 3,000千円</p> <p>④鹿島市観光案内所の開設 事業費3,089千円 インバウンド対応を重視した観光案内所を市内観光の拠点となるJR肥前鹿島駅前に開設。テナント料・運営委託費ほか、外国人観光客とのコミュニケーションを図るため通信通訳サービスを合わせて導入する。 使用料及び賃借料 778千円(テナント料×12月分) 通信運搬費 194千円(通信通訳サービス月額利用料×12月分) 運営委託料 2,117千円(管理運営業務委託)</p> <p>⑤募集型企画旅行商品造成支援 事業費755千円 市内の複数の観光資源をコースに取り入れた募集型企画旅行商品を作成した旅行者に、1募集当たり3万円程度を補助し、市内回遊の仕組みづくりと観光消費に寄与する。 補助金 755千円</p> <p>⑥肥前浜宿創生プロジェクト事業 事業費 6,000千円 地元まちづくりNPO団体に委託し、肥前浜宿の玄関口であるJR肥前浜駅を拠点に、にぎわいつくりに関する活動の企画運営と、移住や空き町家に関する対応等で定住人口、交流人口増を図る。また佐賀大学と連携した新たなまちづくり活動に関する具体的な活動プランを作成する。 人件費2,724千円 会議費976千円 視察研修費300千円 プラン作成委託費2,000千円</p> <p>⑦国内外観光客推計調査委託 事業費 6,000千円 携帯電話のローミング情報を基に、鹿島市を訪れた国内外観光客数を推計し、今後のプロモーション活動に活用していく。 委託料(調査委託費) 6,000千円</p> <p>⑧動画投稿オープンプラットフォームのサイト構築・運営管理委託 事業費3,000千円 鹿島で撮影された動画や写真を観光客等が投稿できる参加型の旅の情報サイトを構築し、広く鹿島観光の魅力伝える。 委託料(サイト構築・運営)3,000千円</p> <p>⑨動画製作 事業費1,000千円 本市最大の観光資源である祐徳稲荷神社界隈を主に紹介する動画を多言語で作成し、旅行者等へPRする。 委託料1,000千円</p> <p>計(①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨) 25,844千円</p>	<p>左のうち、①④⑤については、一過性では効果が薄く、継続して行うことが重要であるため、以下の期間継続して取り組む。また、⑤については、平成28年度中の周知を踏まえ、以降、⑩年2,500千円の事業費に増額し取り組んでいきたい。 また、国内外観光客の受け入れ態勢の整備として、平成30年度には、英語を併記した⑪ランチャマップの作成3,000千円(全額委託料)を計画している。 ⑥については、平成28年度作成のプランをもとににぎわいつくり活動・交流人口増の事務局機能を継続し、事業を実行に移していく。</p> <p>○期間 H28~H31(4年間)</p> <p>○事業費 H28 25,844千円(①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨) H29 11,490千円(①+④+⑥+⑩) H30 14,490千円(①+④+⑥+⑩+⑪) H31 11,490千円(①+④+⑥+⑩) 計 63,314千円(4年間)</p> <p>○OKPI 交流人口の増加 ・観光客入込数 5%増 3,256千人(H25基準値)⇒3,419(H31) ・観光酒蔵入込客数 毎年度5%増 173,530人(H25基準値)⇒221,471人(H31) ・PRイベント鹿島酒蔵ツーリズムへの来場者数 (H26.3月イベント時70,000人來場)⇒70,000人以上(H31) ・市内酒蔵取扱石高 毎年度5%増 5,250石(H25基準値)⇒6,076石(H31) 伝統的な町並みや景観を活かした地域振興の推進 ・イベント実施による交流人口増加数 5000人(H31)</p>

金額	25,844千円			
うちハード事業経費				
内容	—		—	
金額	0千円		0千円	
予算計上時期	28年3月	補正予算		
事業実施期間	始期: 28年3月	終期: 29年3月	始期: 28年3月	終期: 32年3月

事業の一部もしくは全てにおいて、類似の地域少子化対策事業について、「少子化対策重点推進交付金」と重複した申請の有無	
地域再生法に基づき認定された地域再生計画に記載された事業との連動性の有無	

④本事業における重要業績評価指標 (KPI) と地方版総合戦略における基本目標と数値目標

(1)本事業における重要業績評価指標 (KPI)	本事業終了時		数年後	
	指標値	年月	指標値	年月
観光客入込客数	3,289千人 (3,256千人(H25基準値)×1%増)	H29年3月	3,419人	H32年3月
観光酒蔵入込客数	182,206人 (173,530人(H25基準値)×毎年度5%増)	H29年3月	221,471人	H32年3月
PRイベント鹿島酒蔵ツーリズムへの来場者数	70,000人以上 (H26.3月イベント時70,000人來場)	H29年3月	70,000人以上 (H26.3月イベント時70,000人來場)	H32年3月
肥前浜宿まちなみガイド・視察・マスコミ対応人数の増	7000人以上/年 (過去5年の平均 約6000人/年)	H29年3月	7000人以上/年 (過去5年の平均 約6000人/年)	H32年3月
(2)地方版総合戦略における基本目標と数値目標	(基本目標) 定住促進と交流人口の拡大 (数値目標) (酒蔵ツーリズム®の推進)市内酒蔵取扱石高…平成31年度 6,076石 観光酒蔵入込客数…平成31年度 210,925人 (伝統的な町並や景観を活かした地域振興の推進)イベント実施による交流人口増加数…平成31年度 5000人			

⑤本事業の効果検証及び事業見直しの方法、時期及び体制

外部組織による検証の有無	あり	検証時期	29年3月
検証方法	外部組織である「鹿島市まち・ひと・しごと創生会議」で年度ごとに数値目標の達成度などを用いて検証し、委員の意見を踏まえて、必要であれば事業の見直しを行う。		
外部組織の参画者	鹿島市区長会、鹿島市老人クラブ連合会、鹿島嬉野森林組合、鹿島市文化連盟、鹿島市観光協会、佐賀県農業協同組合鹿島支所、佐賀県有明海漁業協同組合鹿島支所、鹿島商工会議所、フォーラム鹿島、鹿島市PTA連合会、鹿島市社会福祉協議会、佐賀県さが創生推進課、佐賀銀行鹿島支店、㈱ネット鹿島、鹿島実業高等学校のそれぞれの代表者と市民から公募した委員5名の計20名で構成する。		
検証結果の公表の方法	鹿島市のホームページで検証結果を公表する。		
議会による検証の有無		検証時期	年 月
検証方法	「鹿島市まち・ひと・しごと創生会議」での検証結果を議会の全員協議会で報告し、検証を行う。		

⑥事業の仕組み

	説明
(1) 地域経済分析システム (RESAS) の活用などによる客観的なデータやこれまでの類似事業の実績評価に基づき事業設計がなされていること。	交付金を充当する経費に掲げる①広告(料)を出す地域については、RESASを活用しつつ、本事業において実施予定のモバイル空間統計、営業活動を行っている観光施設担当者らの意見を参考に、プロモーション活動を実施する場所を決め、効果的な支出を行う。
(2) 事業の企画や実施に当たり、地域における関係者との連携体制が整備されていること。	交付金を充当する経費に掲げている②観光ポスターの作成に当たっては、市内観光関係団体で構成する「かしま観光戦略会議(委員13人)」により、イメージポスターのデザイン等を検討する。 ③多言語観光ホームページの作成に当たっても、掲載内容等について「かしま観光戦略会議」で検討するとともに、観光関係者の意見を聞き観光情報の一元化を目指す。 ④鹿島市観光案内所の管理運営についても、「かしま観光戦略会議」で協議し、効果的な活用等を見出す。 ⑤肥前浜宿創生プロジェクト事業では、地元、行政、佐賀大学が連携して新たなまちづくり活動について協議していく。

⑦先駆性に係る取組 (②:2つ以上の記載必須)

		取組内容		
<p>(1) 自立性</p> <p>〔先駆性のポイント〕 事業を進めていく中で、「稼ぐ力」が発揮され、事業推進主体が自立していくことにより、将来的に行政からの補助金等に頼らずに、事業として自走していくことが可能となるもの。</p>	3～5年以内の自立化の見込み	② あり(地方公共団体の一般財源による負担)		
	財源の内容とその実現方法			
	財源の内容	実現方法		
	鹿島市からの負担金によるかしま観光戦略会議の継続運営(毎年度、市が500千円を負担)	かしま観光戦略会議は、行政が市内の主要観光関係者を委員に委嘱した任意団体であり、市からの負担金を財源に、委員の合議に基づいて観光戦略の推進に向けた諸活動を行っている。観光協会長をこの会議の長として、観光協会や行政もこの会議の事務局として運営に参画している。		
一般財源による事業の実施	かしま観光戦略会議での協議を経て、官民の役割分担により、行政が事業実施主体となって実施する観光プロモーション活動の費用を一般財源により展開する。「鹿島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の具体的な施策として、平成31年度までの事業継続による地域産業の活性化、税収の増			
<p>(2) ①官民協働(それぞれの役割を記載)</p> <p>〔先駆性のポイント〕 地方公共団体のみの取組ではなく、民間と協働して行う事業であること。また、単に協働するにとどまらず、民間からの資金(融資や出資など)を得て行うことがあれば、より望ましい。</p>	行政の役割	上記⑥事業の仕組みで記載する「かしま観光戦略会議」の事務局を行政及び観光協会が担っており、また肥前浜宿のまちづくりプランの検討にも行政として参画していくことで、官民協働を進めていく組織体制がすでに整っている。この中で、行政ができる役割分担を明確にし、民間(観光関係者)のノウハウを活用したり、民間と協働してプロモーション活動を行うなど、本事業を機に積極的に取り組んでいく。		
	民間事業者の役割	上記⑥事業の仕組みで記載したとおり、観光関係者で構成する「かしま観光戦略会議」で協議・検討をしながら進めていくが、主には受入れ態勢づくりや観光地の磨き上げを行う。また肥前浜宿のまちづくりについては、地元まちづくりNPO団体が事務局を担い、民間主導でのまちづくりを進めていく。		
	金融機関の役割	-		
	その他(連携者名と役割)	佐賀大学との連携 肥前浜宿創生プロジェクト事業では、これまで肥前浜宿のまちなみの景観に関する取り組みや、防災のまちづくり等で関係の深い、佐賀大学が参画することで、専門的かつ総合的な視点から支援を受ける。		
<p>(2) ②政策間連携(連携政策の効果とワンストップ化の内容を記載)</p> <p>〔先駆性のポイント〕 単一の政策目的を持つ単純な事業ではなく、複数の政策を相互に関連づけて、全体として、地方創生に対して効果を発揮する事業であること。また、利用者から見て意味あるワンストップ型の窓口等の整備を行う事業であること。</p>	連携政策①	文化庁 重要伝統的建造物群保存地区(肥前浜宿)のまちなみ保存と活用 本市の主要観光地のひとつ、重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた肥前浜宿への観光客誘致活動を行う。肥前浜宿の町並み保存や修復をすすめる一方で、町屋を活用した民泊の実施やガイドの人材育成に取り組むことで、観光客の滞在時間延長を図る。		
	連携政策②	町屋民泊・農家民泊などのニューツーリズム施策との連携		
	連携政策③	一次製品の地域ブランド化、付加価値の高い商品づくりによる二次・三次産業との連携		
	ワンストップ化の内容	鹿島市観光の拠点である肥前鹿島駅前に設置する鹿島市観光案内所が祐徳稲荷神社や肥前浜宿といった市内観光施設等を案内するワンストップ窓口であり、主要観光施設にある案内所においてこれを補完する。		
<p>(2) ③地域間連携(各地方公共団体の役割を記載)</p> <p>〔先駆性のポイント〕 単独の地方公共団体のみの取組ではなく、関係する地方公共団体と連携し、広域的なメリットを發揮する事業であること。</p>	地方公共団体名①及び役割	嬉野市:鹿島酒蔵ツーリズムのPRイベントを開催するに当たって、嬉野市でも同日開催の催しを開催してもらっており、嬉野市で宿泊し、鹿島市内及び嬉野市内での各イベントに参加することが可能となる。事前のPRについて2市合同で実施することにより、費用節減のほか、通年においても観光客の周遊や長期滞在による経済効果に期待できる。		
	地方公共団体名②及び役割	肥前路南西部広域観光協議会(鹿島市、嬉野市、太良町の行政、観光協会で構成)鹿島酒蔵ツーリズムのPRイベントの際に、嬉野市及び太良町方面からの無料送迎バスを運行するなど、周辺地域を上げてサポートしてもらっており、鹿島酒蔵ツーリズムを活用した宿泊プランや広域観光ルートの提案等により、2市1町の広域観光の推進を積極的に進めていく。		
	地方公共団体名③及び役割			
	地方公共団体名④及び役割			
<p>(3) 事業推進主体の形成</p> <p>〔先駆性のポイント〕 事業を実効的・継続的に推進する主体が形成されること。特に、様々な利害関係者が含まれつつ、リーダーシップを持つ人材がその力を發揮できる体制を有した推進主体であることが望ましい。</p>	事業推進主体の名称	かしま観光戦略会議	設立時期	26 年 7 月
	構成メンバー	鹿島市内の観光関係者(鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会、鹿島市ニューツーリズム推進協議会、鹿島市地場産業振興協議会、祐徳稲荷神社、門前商店街、道の駅鹿島、JR肥前鹿島駅長、NPO法人、ガイドの会、観光酒蔵、寺、商工会議所、観光協会、鹿島市)		
	事業推進主体の事業遂行能力	事務局を鹿島市観光協会及び鹿島市で担っており、事業の遂行能力は十分である。		
	経営責任の明確化	規約において、会長のほか、役員を設置しており、責任体制は明確になっている。		

<p>(4) 地方創生人材の確保・育成</p> <p>〔先駆性のポイント〕 事業を推進していく過程において、地方創生に役立つ人材の確保や育成を目指すもの。</p>	<p>地域独自の人材ニーズ</p>	<p>地元の観光関係者で構成する「かしま観光戦略会議」は、平成26年3月に鹿島市観光戦略プランを提言した「かしま観光戦略推進連絡協議会」からの再任委員も多く、鹿島市観光の現状及び課題、目指すべき方向性等に精通している。こういった人材を活用しながら、プロモーション活動を進めていこうとするものであるが、観光客受入れに必要な地域や観光地に精通したガイドの育成が急務となる。</p>
	<p>人材の確保・育成方法</p>	<p>観光プロモーション事業の各取り組みを通じて、観光振興に貢献できる人材を育成していく。また、講習会等を開催することで、ガイドとなりうる人材の育成にも努める。また、こういった人材を既存のガイド組織や「かしま観光戦略会議」に加えることにより組織の活性化にも努めていく。</p>
<p>(5) 国の総合戦略における政策5原則等</p> <p>〔先駆性のポイント〕 国の総合戦略における政策5原則（将来性、地域性又は直接性）の観点や新規性など、他の地方公共団体において参考となる先駆的事業であること。</p>	<p>狙う市場や実現したい将来像（将来性）</p>	<p>年間300万人とも言われる祐徳稲荷神社への参拝客を観光客に変えるための、市内回遊の仕組みづくり・仕掛けづくりに加え、広域観光に向けた取り組みにより、地域資源を総動員した「観光地鹿島」の実現、タイ国を含めた東南アジア諸国からのインバウンド獲得、一次産業・二次産業への波及効果による付加価値の高い商品づくり、地域の稼ぐ力の引き出しによる足腰の強い地域産業の構築と就業機会の拡大を目指す</p>
	<p>地域の強み/地域特性（地域性）</p>	<p>年間325万人が訪れる当該地域独特の観光資源（酒蔵ツーリズム、祐徳稲荷神社、有明海の干潟等）のほか、増加する外国人観光客、豊かな自然が育む一次産品、ものづくりの技が生み出す伝統工芸品、「酒蔵ツーリズム」を生み出した世界に誇る日本酒などの豊富な地域資源がある。これらを活かした観光プロモーションを行い、他地域との差別化を図る。</p> <p>（強み）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒蔵ツーリズム…鹿島市の登録商標。観光庁もこの酒蔵ツーリズムの推進している。 ・祐徳稲荷神社…佐賀県内で最も多い参拝客（年間300万人）が訪れる神社がある。 ・有明海の干潟…国内全体の約4割を占める最大の干潟（8,600ha）に16.4キロ接している。 <p>（弱み）年間325.6万人の観光客が訪れているものの、市内に大規模な宿泊施設がないことから、観光消費額は822円と、宿泊施設を有する周辺市町と比較すると少ない。（出典：平成25年佐賀県観光客動態調査）</p>
	<p>直接性</p>	<p>国内外観光客へのタイムリーかつダイレクトな情報発信、インバウンドを含めた観光客の増加による直接的経済効果</p>
	<p>新規性</p>	<p>観光プロモーション活動を積極的に展開する一方で、国内外観光客の受入れ態勢の整備を行い、地域（観光地）間競争に勝ち残っていけるような魅力ある観光地づくりを行っていく。</p>